

東京 23 区における消防活動困難区域の分布

薄井 宏行¹, 浅見 泰司²

¹ 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻, ² 東京大学空間情報科学研究センター
連絡先:<usui@ua.t.u-tokyo.ac.jp> Web:<http://ua.t.u-tokyo.ac.jp/>

- (1) **目的:** 街路網の充実は、日常時における交通機能を維持するだけでなく、災害時における消火活動や避難活動に支障をきたさないためにも重要である。広幅員街路網の整備が遅れている地域を把握することは、街路網整備の優先順位を決めるために欠かせない。本稿では、消防活動困難区域の有無に着目して、広幅員街路網の整備が遅れている地域を把握する。
- (2) **方法:** 以下の通りである。
- 1) 消防活動困難区域を生成するために、幅員 6 m 以上の街路網から 140 m 以遠の領域を抽出する (図 1 の赤色で示した領域)。
 - 2) 幅員 6 m 以上の広幅員街路網で囲まれた閉領域を生成する。
 - 3) 消防活動困難区域が存在する幅員 6 m 以上の広幅員街路網で囲まれた閉領域を検索する (図 1 の黄色で示した領域)。
- (3) **新規性:** 以下の通りである。
- 1) 東京 23 区における消防活動困難区域の分布を明らかにした。
 - 2) 街路網整備が遅れている地域を明らかにした。
- (4) **特徴:** 広幅員街路網で囲まれた閉領域に着目することによって、閉領域と消防活動困難区域の対応関係が明確となった。
- (5) **結果:** 中野区, 杉並区南東部, 世田谷区北部において消防活動困難区域が連担している。
- (6) **使用したデータ:**
- ・ 統計 GIS の町丁目ポリゴンデータ
 - ・ mapple10000 デジタルデータ。

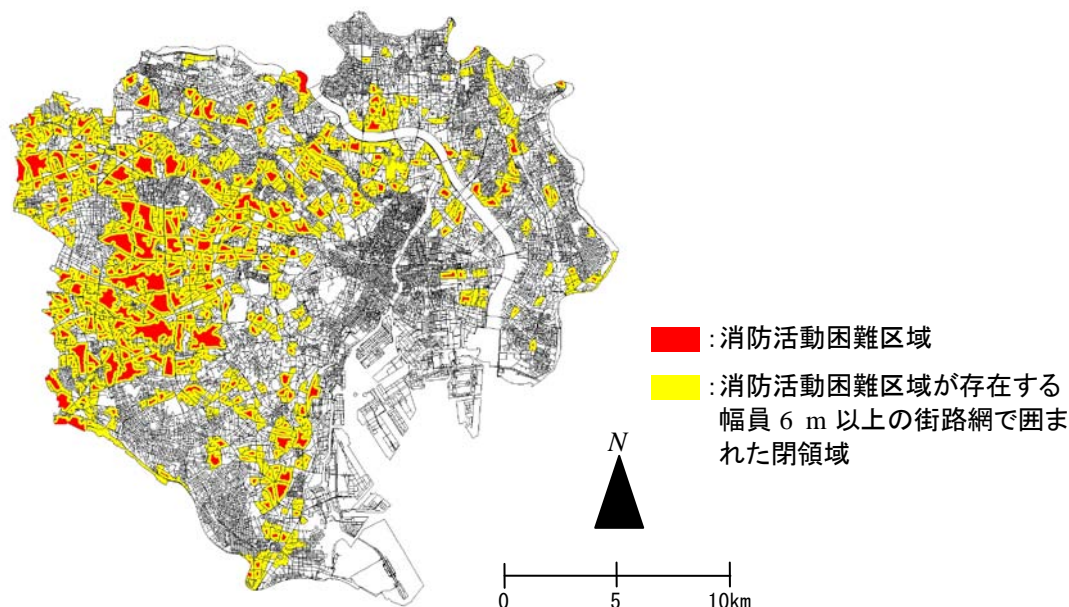


図1: 東京23区における消防活動困難区域の分布